

## 令和6(2024)年度 公益社団法人日本看護協会通常総会代議員報告

令和6(2024)年度 公益社団法人日本看護協会通常総会代議員報告をいたします。

令和6年度通常総会が、6月6日東京国際フォーラムで開催されました。今年度は、代議員750名全員と、一般会員1263名の合計2013名が参加されました。開会式では、東京都看護協会柳橋礼子会長、東京都知事らより歓迎のことばがありました。

続いて高橋弘枝日本看護協会会長より、先ず、今年元旦の能登半島地震発生により、亡くなられた方々への哀悼の意と、被災された方々へのお見舞いの言葉が述べられました。そして、被災地に暮らす看護職員が困難な状況下にありながら、なお地域での支援に尽力されたことを聴きました。また、特に被害の大きかった石川県には災害支援ナースが55日間、27県の看護協会から延べ2982名が派遣され活動したことの報告、並びに迅速な協力と平時からの養成・準備に対し各県看護協会への謝意が表されました。今回の支援活動を通して各方面から高い評価をいただき、国による広域派遣や養成・登録が行われ、より安全に災害支援ナースが活動できる環境が整い、新興感染症への対応を含め、より一層の活躍が期待されるとの報告がありました。

この1年の大きな成果として「看護師等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針」の告示が挙げられました。処遇改善、資質向上、就業継続は、看護職が生涯にわたりキャリアを構築する上での大きな課題となります。2040年を見据えた質量の両面からの看護提供体制の確保と、それら課題を改善・解決に導くものとして、改定後の基本指針の活用が期待されるとし、より一層の処遇改善に向け引き続き全力で取り組む決意が述べられました。引き続き日本看護協会会長表彰では140名が授与され、和歌山県からは櫻根桂子様を受賞されました。

続いて議決事項第1号議案では18名の名誉会員の推薦があり採決されました。議決事項第2号議案では2024年度改選役員及び推薦委員候補者照会、投票が行われ、当県の東直子看護協会会長を含む役員・委員が選出されました。

報告事項1では令和5年度事業報告と報告事項2では令和5年度決算報告及び監査報告がありました。そして報告事項3では令和6年度重点政策として、1全世代の健康を支える看護機能の強化、2専門職としてのキャリア継続の支援、3地域における健康と療養を支える看護職の裁量発揮、4地域の健康危機管理体制の構築が挙げられ、重点事業並びに事業計画が述べられました。報告事項4では令和6年度資金収支予算及び収支予算報告がありました。

全員の質疑を受けられないほど多くの質問、意見表明等がありました。抜粋しますと2040年を見据えた医療圏のあり方、医療と介護の連携、看護機能の強化に向けた取り組みではICT活用、看護DXによる業務の効率化、訪問看護や看多機のあるべき姿や、全世代の在宅療養支援への取り組みについて、健康寿命の延伸に向けた重症化予防、健康を支える地域・職域連携の強化戦略の検討、働き方改革として賃金の大規模調査を本年実施予定で看護職の確保と定着、キャリアアップの賃金への反映に取り組むこと、夜勤・交代制勤務の在り方の検討、看護補助者の確保・定着の課題、認定看護管理者養成推進、ナースプラクティショナー(仮称)制度の構築等が課題に挙げられていました。

日本看護協会の取り組みを直接聴くことで、看護協会が看護職に果たす役割、直接事業に関わる会長を含め理事の皆さんの取り組みやご苦勞をより知ることができました。以上です。

令和6年6月15日 文責 紀南病院 看護部長 岡地美代